

介護の仕事はやりがいがいっぱい

グループホームやまぶきの郷・グループホームおおわだの郷・ケアプランセンターおうばく

栄仁会では、認知症の方を対象とした介護事業を展開しています。

今回は、介護関連施設の責任者3人に話をうかがいました。

つらい「3K仕事」と捉えられがちな介護職が、じつはやりがいと楽しさに満ちた仕事であることを浮き彫りにします。



グループホーム おおわだの郷

笠原正護 (かさはら しょうご) / 主任・介護福祉士

ケアプランセンター おうばく

中村里志 (なかむら さとし) / 係長・精神保健福祉士

グループホーム やまぶきの郷

大土居照人 (おおどい てるひと) / 係長・精神保健福祉士

医療法人がバックにあるという強み

Q二〇二五年には、日本の認知症患者は約七〇〇万人に上り、高齢者の五人に一人に達するという厚労省の推計もあります。そうしたなか、認知症対象の介護事業に携わるみなさんにお集まりいただきました。まず、みなさんのお仕事について教えてください。

笠原 私が勤務する「グループホームおおわだの郷」はデイサービス部門とグループホーム部門に分かれていますが、そのうちグループホームの責任者を務めています。うちの施設では、九人ずつの二グループ、計一八人が共同生活をしています。スタッフはシフト制で、夕方から翌朝まで勤務する日もあれば、早朝から午後まで勤務する日もある、という具合です。

大土居 私が責任者を務める「やまぶきの郷」は、施設の一階がグループホームになっていて、いまは一八名の方が生活されています。二階では「小規模多機能型居宅介護」というものを行っています。

Qそれはどういうものですか？

大土居 自宅でご家族と一緒に住まいの認知症の方がデイサービスのように通所されたり、必要なら泊まることもできる施設です。また、スタッフがご自宅を訪問するヘルパー・サービスも行っております。一つの施設で通所・宿泊・訪問の三つの機能があるので「多機能型」なわけです。

中村 私が責任者を務めている「ケアプランセンターおうばく」は、直接介護に当たるのではなく、ケアのプランを立てる仕事をしています。そのプランに基づいて、デイサービスやヘルパーさんの派遣などを行っています。栄仁会の施設に限らず、他法人の介護事業所などに仕事を振ることもよくあります。